

荷機稲荷神社だより

令和7年5月1日発行 第6号

発行：金幣社正一位荷機稲荷神社 岐阜県瑞浪市稲津町小里560番地 TEL：0572-67-1421

令和7年度 荷機稲荷神社役員（令和7年4月現在）

平素から荷機稲荷神社に対して格別なご理解とご協力を賜っておりますこと、厚くお礼を申し上げます。

令和7年度の荷機稲荷神社の新しい役員一同、一丸となって奉賛活動を遂行してまいりますので、荷機稲荷神社に対してより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神 職

役職名	氏 名
宮 司	工藤伸太郎
権禰宜	後藤 修
〃	勝股 章
〃	工藤 重光

顧 問

役職名	氏 名
顧 問	
〃	
〃	

巫女関係

役職名	氏 名
巫女指導者	
〃	
巫 女	
〃	
〃	
〃	

奉賛会【本部役員】

役 職 名	氏 名
奉賛会長	
副会長	
〃	
幹 事	
会 計	
監 事	
〃	
理 事	
〃	
〃	
〃	
〃	
〃	
〃	

【地区世話人】

※本部役員兼務

地 区 名	氏 名
山の田1号	
山の田2号	
産 郷	
中屋敷	
五 郷	
三 角	
神 戸	
下小里	
羽 広	
須之宮	
釜 糠	
川 折	
河 原	
小井戸	
水 洗	
中 洞	
上 平	
大 牧	
斧 池	

荷機稲荷神社の奉賛会とは

昭和27年、荷機稲荷神社を崇敬する人々が御神恩に報い、御神徳の高揚と神社の隆昌を図ることを目的に奉賛会を結成して現在に至っております。

奉賛会の本部役員は、1年間の祭事が順調に執り行われるよう、毎月の月次祭、月参講前の清掃作業や環境整備作業など年間を通していろいろな奉仕活動をしております。

地区世話人は、月次祭、月参講をはじめ迎春準備、初午大祭などの奉仕作業をしております。



崇敬者の皆様におかれましては、平素から荷機稲荷神社に対して格別なご理解とご協力を賜っておりますこと、厚くお礼を申し上げます。

荷機稲荷神社の月参講も昭和27年4月から始まって以来、令和6年11月に通算800回を数えるに至りました。ここまで長く続けてこられたのも、ひとえに崇敬者の皆様の格別のご協力とご奉仕のお陰と厚くお礼を申し上げます。

このような長い歴史のある信仰の燈火を守り、伝えていくことの大切さと責任の重大さを痛感いたしております。皆様と共に日々奉仕に励んでまいりたいと思っております。

結びにあたり、今後とも荷機稲荷神社に対してより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご繁栄をご祈念申し上げ、ごあいさついたします。

荷機稲荷神社の御神徳

稲荷神社の御神徳は、五穀豊穡、商売繁盛、家業繁栄、家内安全、交通安全など幅広く私たちを守護する神様として多くの崇敬を集めています。

稲荷信仰の起源

当神社の鎮座地は、昔より幾多の霊穴があり近郷より不思議な縁起の良い穴と信仰が寄せられた聖地でした。今を去る江戸時代中期に連年凶作が続いたので村民が上洛して、村内安全、五穀豊穡祈願のため、京都伏見稲荷大社に御分社を熱願懇望した結果、文化元年(1804年)3月、日本総司皇都稲荷本社((現)伏見稲荷大社)から御分社の神璽と正一位荷機稲荷神社の名称を戴き、この地に鎮座、社殿を造営しました。



荷機稲荷神社の荷機、稲荷とは

荷(か)とは、荷物を数える単位で、昔嫁入りの荷物を人の肩で担いで運ぶとき一荷二荷と数え、嫁を迎える、幸せを呼ぶ、恩を受ける、恵みを受けるなどおめでたい字です。

機(き)とは、機会の機で、これから何かをするのに丁度いい機会、はずみ、きっかけを戴くことを表している字です。

二つ合わせて「荷機」、荷機稲荷神社の大前で皆様の望みを祈願して幸せになってください。

稲荷(いなり)は、稲を荷なう農民の姿から用います。





茅の輪くぐり神事とは

茅の輪くぐりとは、1年に2回執り行われ、6月末を「夏越しの祓え」、12月末を「年越えの祓え」といいます。「夏越しの祓え」は、1年の前半の穢れを清めて災厄を祓うための神事で、「年越えの祓え」は、1年間の穢れを落とし、心身共に新年を迎えるための神事です。

茅の輪は、拝殿前の参道に奉賛会役員が、6月は茅（ちがや）を、12月は稲藁（いなわら）を使って作っています。



七五三詣とは

乳児期から子供への成長を感謝する行事が七五三詣といえます。

一般に三歳は、「髪置（かみおき）」と呼び、男女ともお祝いします。五歳は、男子の「袴着（はかまぎ）」、七歳は、女子の「帯解（おびとき）」のお祝いとされています。

全国的には、秋の刈り取りがすんだ11月15日前後にお参りしますが、子供たちが無事に成長出来たことを神様に見せて感謝の気持ちを伝え、これからも心身共に成長出来ますよう家族揃ってお祝いしましょう。



初午大祭

令和7年の初午大祭は、3月2日（日）に多くの皆様方の格別なる御支援と御協力のおかげで、盛況のうちにすることが出来ましたことを厚くお礼申し上げます。



御使者合わせ



御神輿



御神札、御神酒、御守売場



御神馬乗馬会



投げ餅



おししゃ きつね 御使者の狐とは

狐は、農耕を妨げる野ねずみや野兎を退治したり、水田の近くによく現れることから、田の神の使いと感じ、人界と霊界をつなぐ神様の使いと言われるようになりました。

当神社の初午大祭には、崇敬者が家の神棚から神使いの「陶製の狐像」を奉持し、幣殿でお祓いを受け御祭神とお合わせし、神明の加護を祈り、家の神棚に安置する信仰行事「御使者合わせ」が早朝より続きます。



月参講とは

昭和27年、荷機稲荷神社奉賛会において、崇敬者の家内安全、五穀豊穰、商売繁盛などを祈願すると共に、世の人々の福祉増進を図ることを目的に、10名前後の講員を1組とし、毎月代表者が順番に参拝することを月参講といいます。初回齋行以来、令和6年11月で「800回」を数えるに至りました。



荷機稲荷神社 年間の祭事予定表



1月	1日	歳旦祭	7月	15日	津島神社例祭
1月	第2日曜日	月次祭・月参講	8月	第1日曜日	月次祭・月参講
2月	第1日曜日	月次祭・月参講	9月	第1日曜日	月次祭・月参講
3月	第1日曜日の前日	初午大祭前夜祭	10月	第1日曜日	月次祭・月参講
3月	第1日曜日	初午大祭	11月	第1日曜日	月次祭・月参講
3月	第2日曜日	二の午大祭・祈年祭	11月	15日前の土曜日	七・五・三祭
4月	第1日曜日	月次祭・月参講	11月	15日前的日曜日	七・五・三祭
5月	第1日曜日	月次祭・月参講	12月	第1日曜日	月次祭・月参講・新嘗祭
6月	第1日曜日	月次祭・月参講	12月	下旬	大注連縄・茅の輪
6月	下旬	大祓(夏越の祓)・茅ノ輪	12月	31日	除夜祭・大祓(年越の祓)
7月	第1日曜日	月次祭・月参講			

「荷機稲荷神社だより」 編集後記

荷機稲荷神社のことをもっと広く知っていただくため、広報紙を発行して今回で第6号となりました。皆様に親しまれ、愛され、ご参拝に来ていただけるよう奉賛会役員一同務めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。